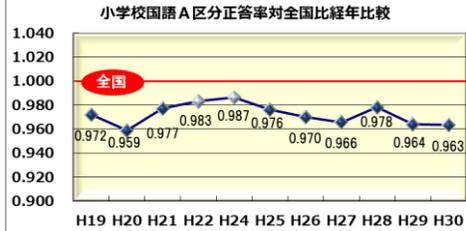
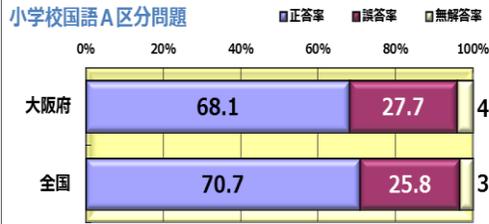


平均正答率は68.1%であり、「話すこと・聞くこと」の領域で成果が見られるものもあるが、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

正答率比較



平均正答率は全国を2.6ポイント下回った

◆全国の平均正答率が70.7%であるのに対し、大阪府の平均正答率は68.1%であり、2.6ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度とほぼ同じだった

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.963となり、昨年度とほぼ同じだった。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.7ポイント上回った

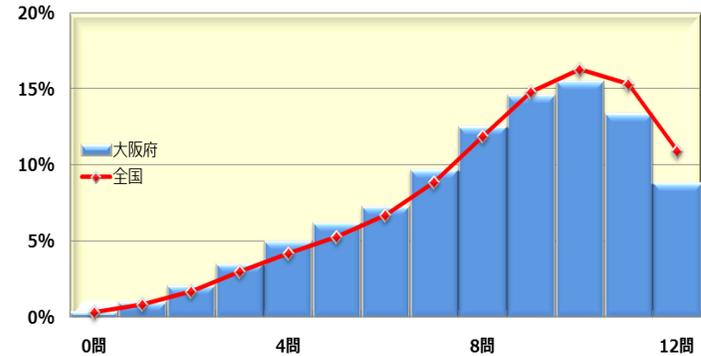
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成21年度からは0.7ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.7ポイント上回り、昨年度より全国との差が広がった。



具体的な課題等

- ◇相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことは、相当数の児童ができています。
- ◇日常生活で使われている慣用語の意味を理解することは、相当数の児童ができています。
- ◆文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。(語句のつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す)
- ◆相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がある。(適切な敬語の組み合わせを選択する)
- ◆学年別配当表に示されている漢字を正しく使うことに課題があるものがある。(かん理の「管」、せつ極的の「積」と同じ漢字を使う文を選択する)

正答数分布

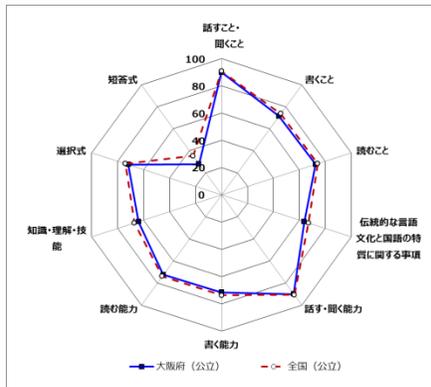


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆大阪府・全国ともに10問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0～8問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、9～12問では全国よりも低い。

領域・観点・問題形式別

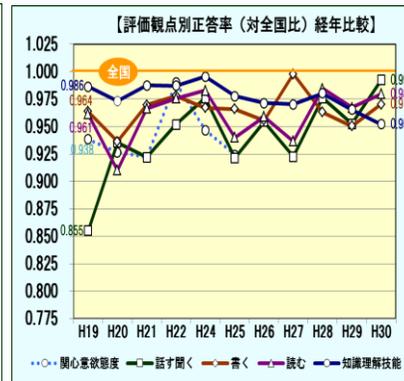
平成30年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「話すこと・聞くこと」の領域で高い値を示し、「短答式」で特に低い値を示している。



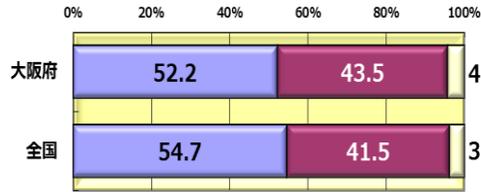
◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29,30は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は52.2%であり、目的や意図に応じ、複数の資料から適切な内容を取り上げて書いたり、自分の考えを明確にしながらかいたりすることに課題があり、指導事項を明確にして、言語活動を通じた指導の充実が求められる。

正答率比較

小学校国語B区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



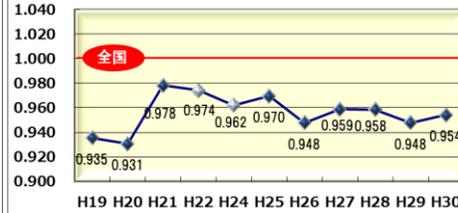
平均正答率は全国を2.5ポイント下回った

◆全国の平均正答率が54.7%であるのに対し、大阪府の平均正答率は52.2%であり、2.5ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.954となり、昨年度を上回った。

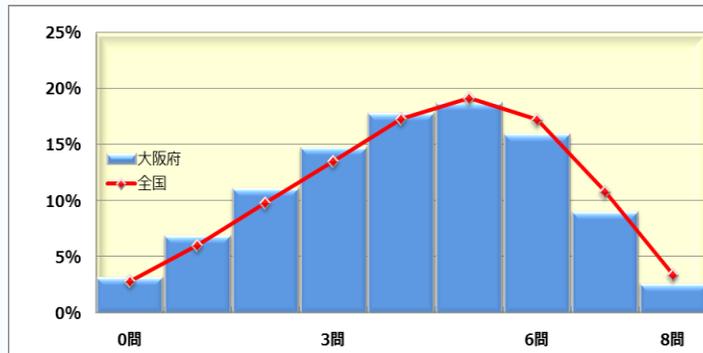
小学校国語B区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題等

- ◆話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。(代表で発表した北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、どう考えたのかを書く)
- ◆目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。([紹介する文章]と[保健室の先生の話から分かったこと]を取り入れて、相手に伝わるように[おすすめする文章]を書く)
- ◆目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかいたりすることに課題がある。([伝記「湯川秀樹」の一部]から取り上げた言葉や文を基に、心がひかれた一文の理由を考えて書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも5問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0~4問では全国よりも正答数分布の割合は高く、5~8問では全国より低い。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.5ポイント上回った

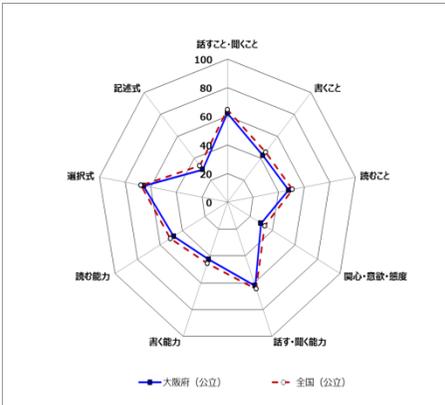
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成21年度からは1.2ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.5ポイント上回り、昨年度より差は縮まった。

小国B区分・無解答率全国差の推移

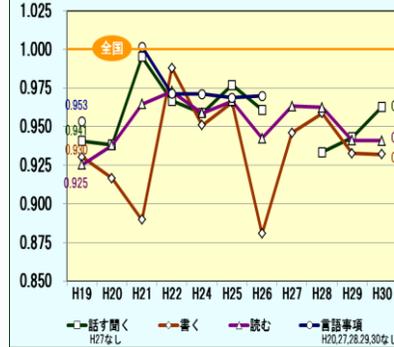


領域・観点・問題形式別

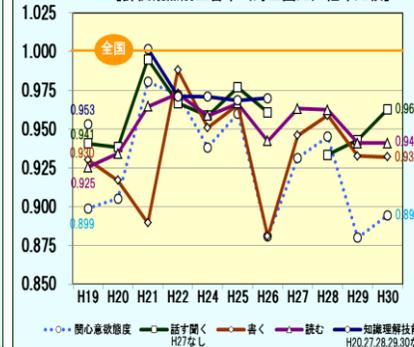
平成30年度 レーダーチャート



【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29,30は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

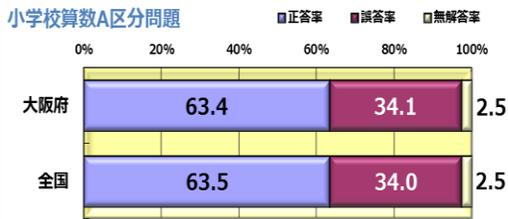
小学校算数 A

区分問題 (主に「知識」に関する問題)

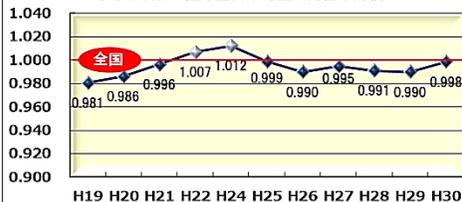
平均正答率は63.4%であり、各設問を個別に見ると依然として基礎的・基本的な事項の習得に課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組みを進める必要がある。

正答率比較

小学校算数A区分問題



小学校算数A区分正答率対全国比経年比較



平均正答率は全国を0.1ポイント下回った

◆全国の平均正答率が63.5%であるのに対し、大阪府の平均正答率は63.4%であり、0.1ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

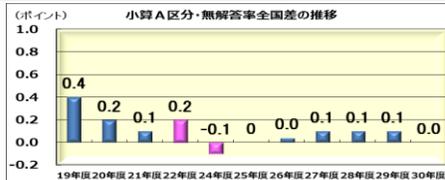
◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.998となり、昨年度を上回った。

無解答率比較

無解答率は全国の状況と差がなかった

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度から0.1ポイント以下になっている。今年度は全国と差がなかった。

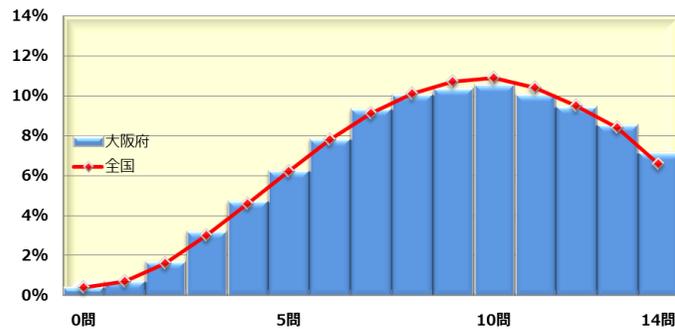
小算A区分・無解答率全国差の推移



具体的な課題等

- ◇異種の二つの量のうち、一方の量がそらっているときの混み具合の比べ方を理解することは、相当数の児童ができています。(面積がそらっている二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ)
- ◇180°の角の大きさを理解することは、相当数の児童ができています。(示された角の大きさが、何度であるかを選ぶ)
- ◆小数の除法の意味について理解することに課題がある。(答えが12÷0.8の式で求められる問題を選ぶ)
- ◆単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解することに依然として課題がある。(二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ)
- ◆180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることに依然として課題がある。(分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める)

正答数分布

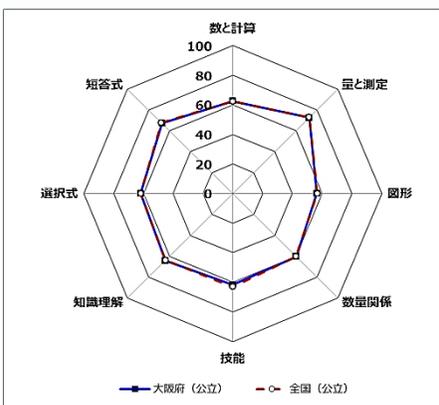


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府ともに10問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0~7問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、8~12問では、全国より低い。また、13~14問では、全国よりも高い。

領域・観点・問題形式別

平成30年度 レーダーチャート

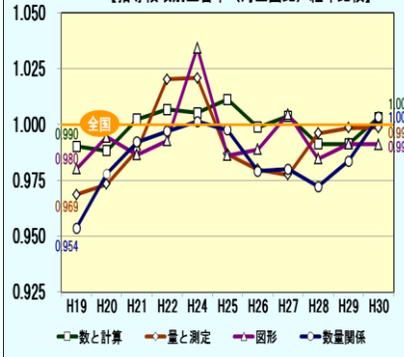


領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「図形」でやや低い値を示している。

【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】

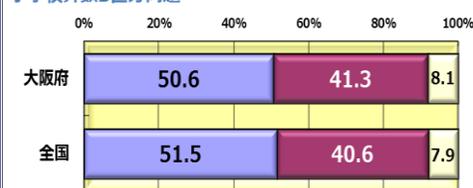


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29,30は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

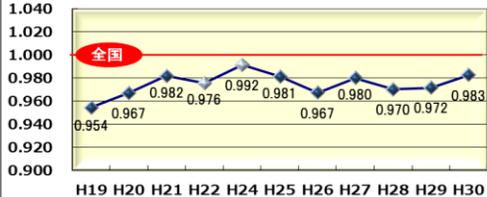
平均正答率は50.6%であり、複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈したり、事柄が成り立つことを図形の構成要素や性質を基に論理的に考察し、数学的に表現することに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率比較

小学校算数B区分問題



小学校算数B区分正答率対全国比経年比較



平均正答率は全国を0.9ポイント下回った

◆全国の平均正答率が51.5%であるのに対し、大阪府の平均正答率は50.6%であり、0.9ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨棄して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.983となり、昨年度を上回った。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.2ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からは0.4ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.2ポイント上回り、昨年度より差は縮まった。

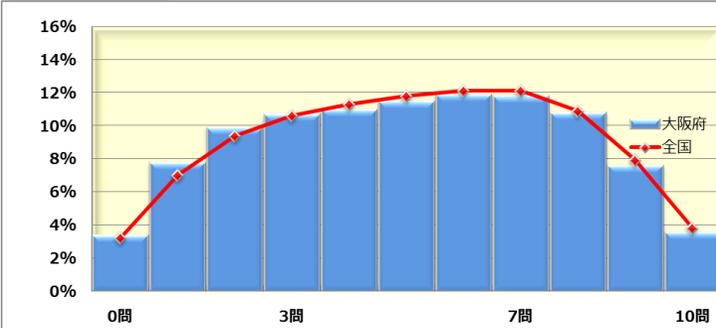
小算B区分・無解答率全国差の推移



具体的な課題等

- ◆複数のグラフから読み取ることができることを、適切に判断することに課題がある。(一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ)
- ◆敷き詰め模様の中から図形を見だし、その構成要素や性質を基に、一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述することに課題がある。(一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く)
- ◆折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、枚数、本数、個数などの数量を関連付け、根拠を明確にして記述することに課題がある。(横の長さが7mの黒板に輪がざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く)

正答数分布

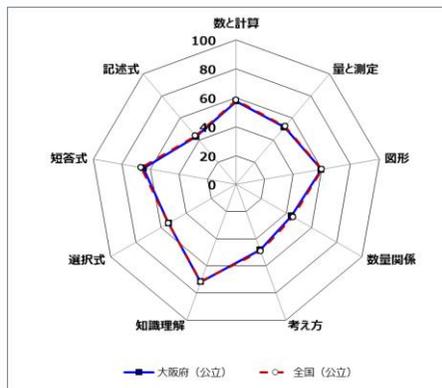


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国は6問、7問、大阪府は6問を頂点とした緩やかな山型を描いている。
- ◆大阪府は0~3問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、4~10問では全国より低い。

領域・観点・問題形式別

平成30年度 レーダーチャート

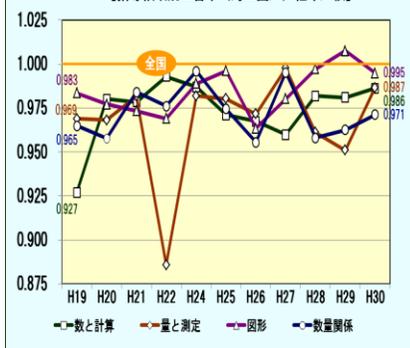


領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

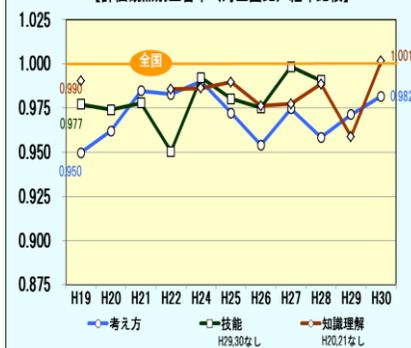
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数量関係」「数学的な考え方」「記述式」で特に低い値を示している。

【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】

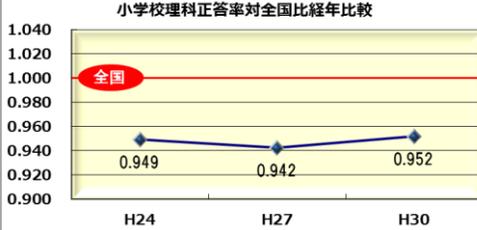
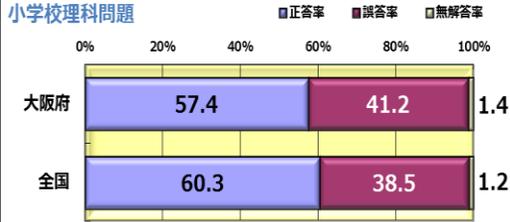


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29,30は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

小学校理科

平均正答率は57.4%であり、予想が確かめられた場合に得る結果を見通して実験を構想したり、実験結果を基により妥当な考えに改善し、その内容を記述したりすることに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率比較



平均正答率は全国を2.9ポイント下回った

◆全国の平均正答率が60.3%であるのに対し、大阪府の平均正答率は57.4%であり、2.9ポイント全国を下回った。

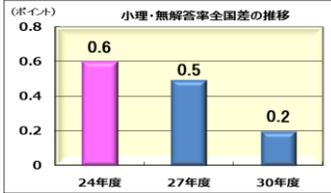
対全国比は平成27年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.952となり、平成27年度の前調査を上回った。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.2ポイント上回った

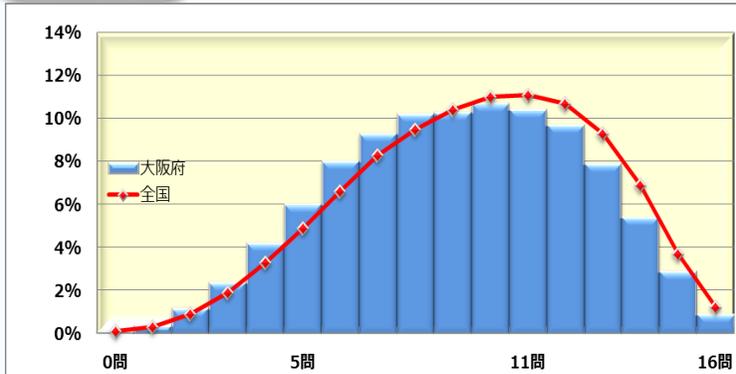
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、今年度は全国の状況を0.2ポイント上回り、平成27年度の前調査より全国との差は縮まった。



具体的な課題等

- ◇堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解することは、相当数の児童ができています。
- ◇観察、実験の結果を整理し分析して考察することについて、得られたデータと現象を関係付けて考察することは、相当数の児童ができています。
- ◆予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想したり、実験結果を基に自分の考えを改善したりすることには依然として課題がある。(回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ/食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く)
- ◆既習の内容や生活経験をもとに適用することに課題がある。(人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ/目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ)

正答数分布



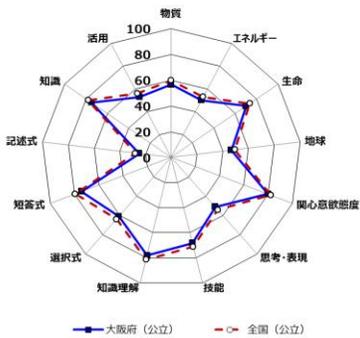
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆全国は11問、大阪府は10問を頂点とした右よりの山型を描いている。

◆大阪府の正答数分布の割合は、1～8問までは全国より高く、9～16問までは全国より低い。

領域・観点・問題形式別

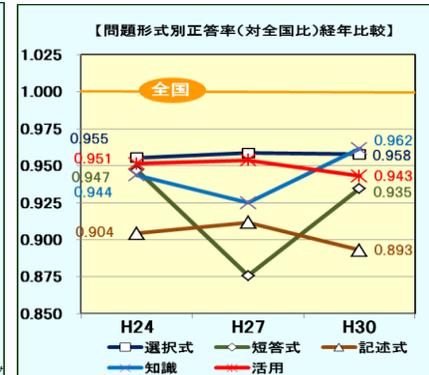
平成30年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況を少しずつ下回りながら同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「記述式」で特に低い値を示している。



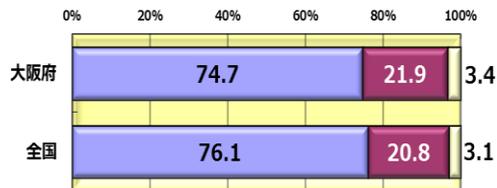
◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H27,30は悉皆調査、H24は抽出調査)

平均正答率は74.7%であり、話合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、目的に応じて適切な文を書くことに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率比較

中学校国語A区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



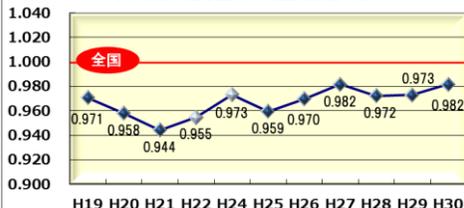
平均正答率は全国を1.4ポイント下回った

◆全国の平均正答率が76.1%であるのに対し、大阪府の平均正答率は74.7%であり、1.4ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.982となり、昨年度を上回った。

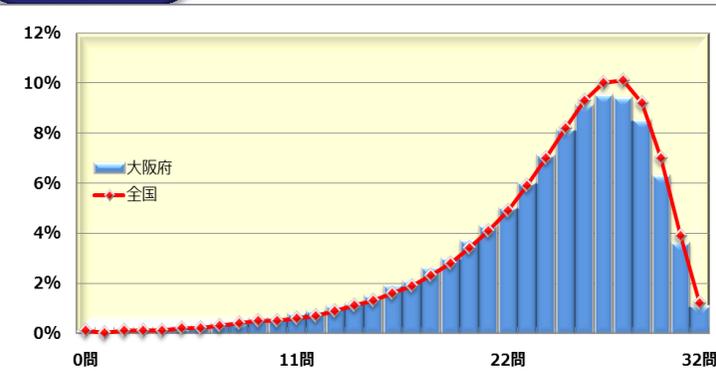
中学校国語A区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題等

- ◇場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することは、相当数の生徒ができています。
- ◆話合いの話題や方向を捉えて的確に話すことに課題がある。(話し合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く)
- ◆目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題がある。「心を打たれた」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く)
- ◆行書の基礎的な書き方を理解して書くことに課題がある。(作品への助言として適切なものを選択する)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

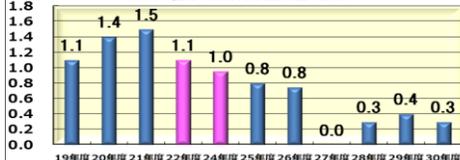
- ◆全国は28問、大阪府は27問を頂点にした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は6～24問では、全国よりも正答数分布の割合が高く、25～32問では全国より低い。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.3ポイント上回った

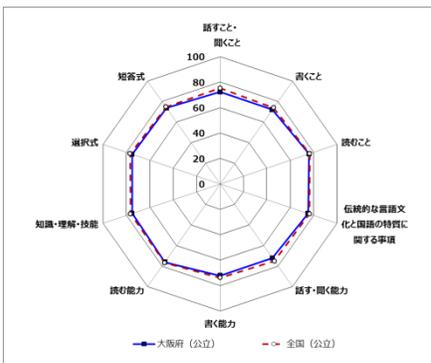
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成25年度から0.8ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.3ポイント上回り、昨年度より差は縮まった。

中国A区分・無解答率全国差の推移



領域・観点・問題形式別

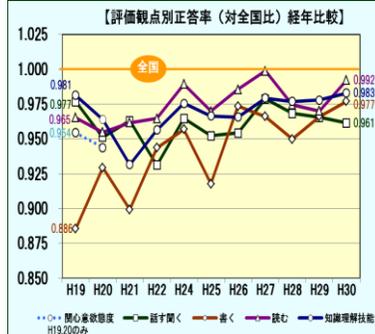
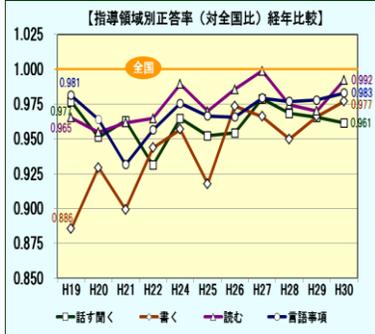
平成30年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」でやや高い数値を示している。

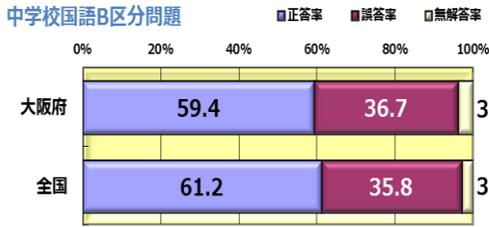


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29,30は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

区分問題 (主に「活用」に関する問題)

平均正答率は59.4%であり、目的に応じて文章を読み情報を整理して必要な内容を的確に捉えたり、内容を整理して書いたり、相手の反応を踏まえながら話したりすることに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率比較



平均正答率は全国を1.8ポイント下回った

◆全国の平均正答率が61.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は59.4%であり、1.8ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.971となり、昨年度より上回った。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.9ポイント上回った

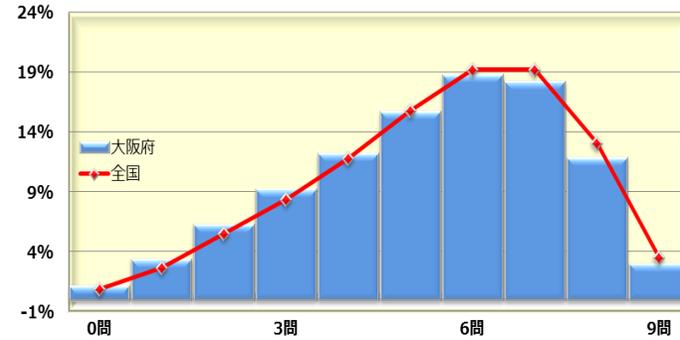
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成25年度から1.5ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を0.9ポイント上回り、昨年度より差は縮まった。



具体的な課題等

- ◇二人の質問の意図として適切なものを選択することは、相当数の生徒ができています。
- ◇話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することは、相当数の生徒ができています。
- ◆目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題がある。「天地無用」という誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く
- ◆全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことに課題がある。(ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の進め方として適切なものを選択する)
- ◆相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことに課題がある。(話のあらすじを学級の友だちにどのように説明するかを書く)

正答数分布

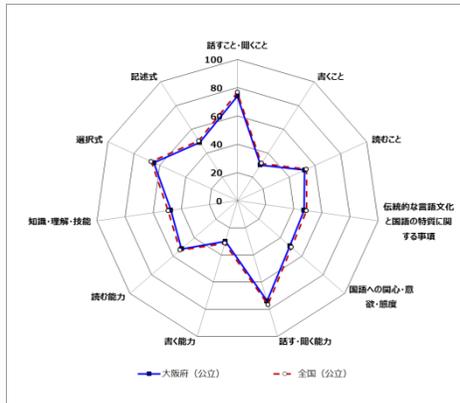


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも6~7問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0~4問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、5~9問では、全国より低い。

領域・観点・問題形式別

平成30年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する事項「関心・意欲・態度」「書く能力」「記述式」で低い値を示している。

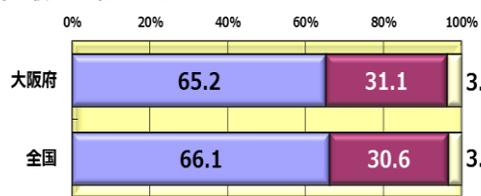


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29,30は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は65.2%であり、関数の領域において課題があり、基礎的、基本的な知識・技能の習得など、指導の充実が求められる。

正答率比較

中学校数学A区分問題



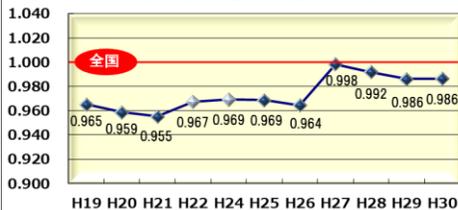
平均正答率は全国を0.9ポイント下回った

◆全国の平均正答率が66.1%であるのに対し、大阪府の平均正答率は65.2%であり、0.9ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度と同じ

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.986となり、昨年度と同じだった。

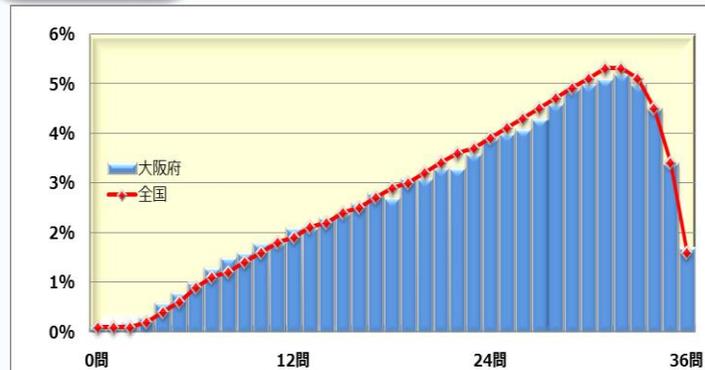
中学校数学A区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題等

- ◇数直線上に示された負の整数を読み取ることについては相当数の生徒ができています。
- ◇単項式どうしの除法の計算、比例式を解くことについては相当数の生徒ができています。
- ◇見取図、投影図から空間図形を読み取ることについては相当数の生徒ができています。
- ◆数量の大小関係を不等式に表すことに課題がある。(文章から数量関係を読み取り、 $3a+4b \geq 15$ と表す)
- ◆四角錐の体積と、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の関係の理解について課題がある。(四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $1/3$ であることを選ぶ)
- ◆一次関数について、式とグラフを関連付けた理解について課題がある。(y=-2x+6のグラフを選ぶ)
- ◆確率の意味理解について改善の傾向がみられるが、引き続き課題がある。(相対度数の記述について正しいものを選ぶ)

正答数分布



正答数分布の様子は全国と同傾向

◆全国は31~32問を、大阪府は32問を頂点とした右よりの山型を描いている。
◆大阪府は2~10問、12問、14問、16問、17問、19問、36問では、全国よりも正答数分布の割合が高く、18問、20~23問、25~28問、30~33問では全国より低い。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.4ポイント上回った

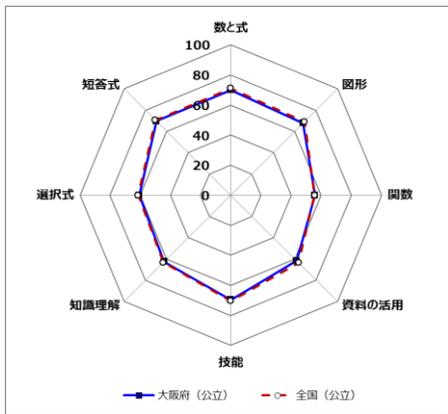
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からは1.2ポイント以下になっている。今年度は全国平均の状況を0.4ポイント上回り、昨年度より差は縮まった。

中数A区分・無解答率全国差の推移



領域・観点・問題形式別

平成30年度 レーダーチャート

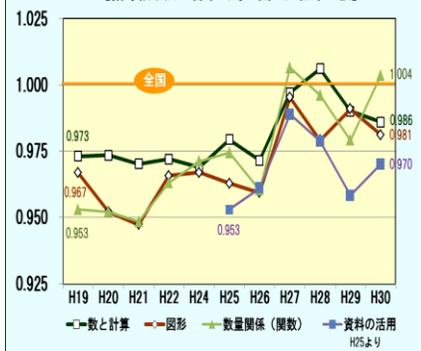


領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国平均の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数と式」「図形」「技能」でやや高く、「関数」でやや低い値を示している。

【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



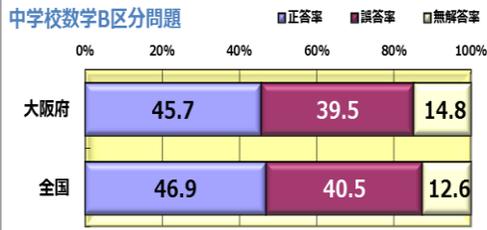
【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29,30は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は45.7%であり、問題解決の方法、事柄が成り立つ理由や、判断の理由を数学的な表現を使って説明することに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率比較



平均正答率は全国を1.2ポイント下回った

◆全国の平均正答率が46.9%であるのに対し、大阪府の平均正答率は45.7%であり、1.2ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

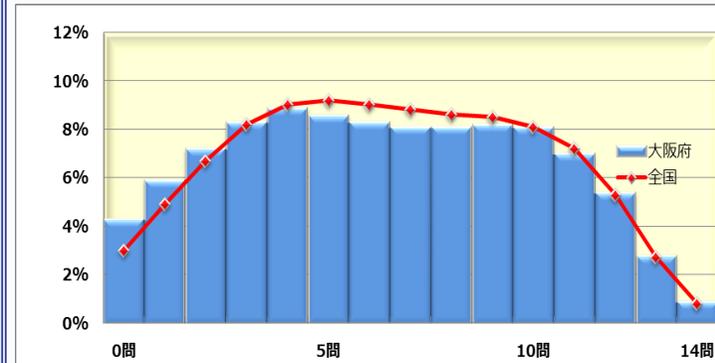
◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.974となり、昨年度を上回った。



具体的な課題等

- ◇問題場における考察の対象を明確に捉えることについては相当数の生徒ができています。
- ◆付加された条件の下で、新たな事柄を見出し、説明することに課題がある。(条件を平行四辺形から、正方形に変えたときに新たに見いだした事柄を説明する)
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(与えられたダイアグラムを基に、列車のすれ違いが起こる地点を求める方法を説明する)
- ◆不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(曲fが選ばれやすい理由を確率を用いて説明する)
- ◆数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現を使って説明することに課題がある。(通常料金a円が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらないことを説明する)

正答数分布



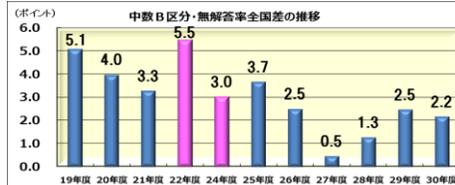
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国は5問、大阪府は4問を頂点とした左よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0~3問、12~14問では、全国よりも正答数分布の割合が高く、4~9問、11問では全国より低い。

無解答率比較

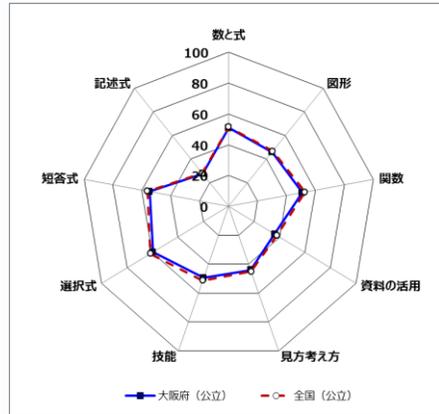
無解答率は全国の状況を2.2ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成26年度からは2.5ポイント以下になっている。今年度は全国の状況を2.2ポイント上回り、昨年度より差は縮まった。



領域・観点・問題形式別

平成30年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

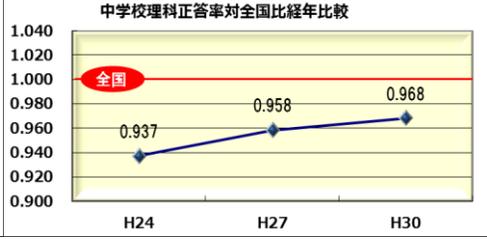
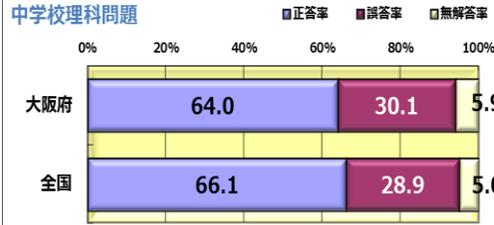
◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「資料の活用」でやや低い値を、「記述式」で特に低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28,29,30は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は64.0%であり、観察・実験の結果に基づいて自他の考えを検討し改善することや、実験を計画することに継続的な課題が見られる。

正答率比較



平均正答率は全国を2.1ポイント下回った

◆全国の平均正答率が66.1%であるのに対し、大阪府の平均正答率は64.0%であり、2.1ポイント全国を下回った。

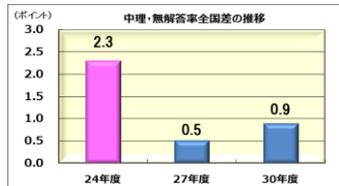
対全国比は平成27年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.968となり、平成27年度の前調査を上回った。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.9ポイント上回った

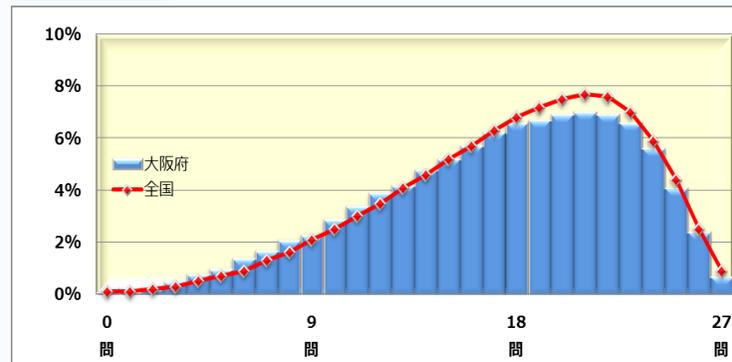
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、今年度は、全国の状況を0.9ポイント上回り、平成27年度より差は広がった。



具体的な課題等

- ◇軟体動物を指摘すること、物質を原子の記号で表すこと、植物の蒸散を指摘することは、相当数の生徒ができています。
- ◇習得した知識・技能を活用して、観察・実験の結果を分析して解釈することは、相当数の生徒ができています。
- ◆特定の質量パーセント濃度における水溶液の溶質の質量と水の質量を求めることに引き続き課題がある。(質量パーセント濃度が3.0%の食塩水を選択する)
- ◆自分や他者の考えを検討して改善することに課題がある。(考察を条件制御の視点から見直し、空欄に適切な言葉を記述する問題/科学変化をモデルで表した式を検討して改善し、適切な酸素モデルを記述する)
- ◆自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し、条件を制御して実験を計画することに課題がある。(植物の蒸散以外で、容器中の湿度を上げる原因を記述する)

正答数分布



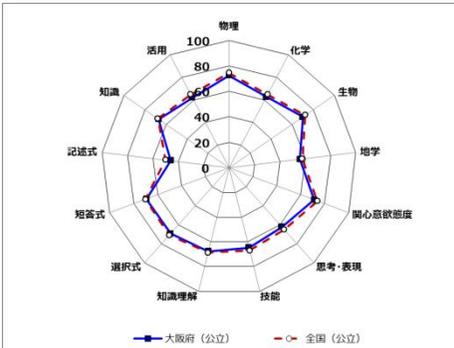
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆全国は21問、大阪府も21問を頂点とした緩やかな右よりの山型を描いている。

◆大阪府の正答数分布の割合は、2~14問で全国より高く、17~27問で全国より低い。

領域・観点・問題形式別

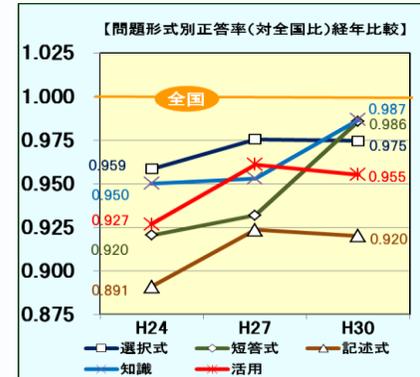
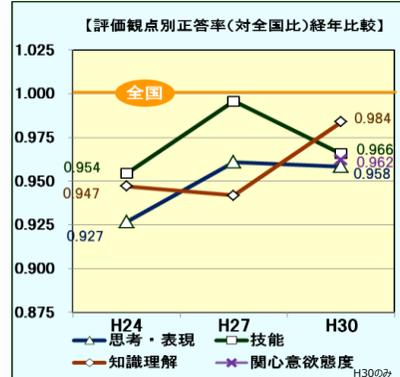
平成30年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況を少しずつ下回りながら同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「地学的領域」でやや低い値を、「記述式」で特に低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H27,30は悉皆調査、H24は抽出調査)

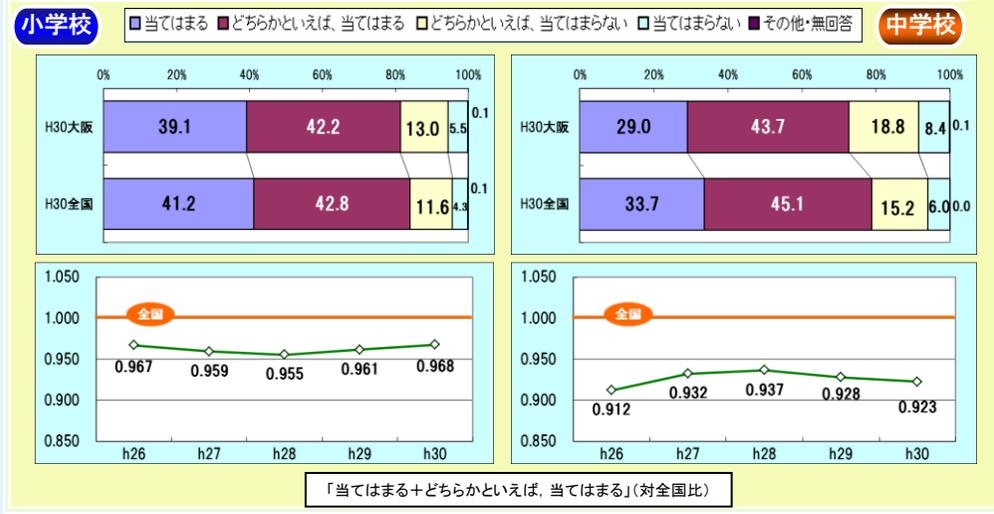
◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.1

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 自己肯定感

Q: 自分には、よいところがあると思いますか?

・「自分には、よいところがあると思う」児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っている

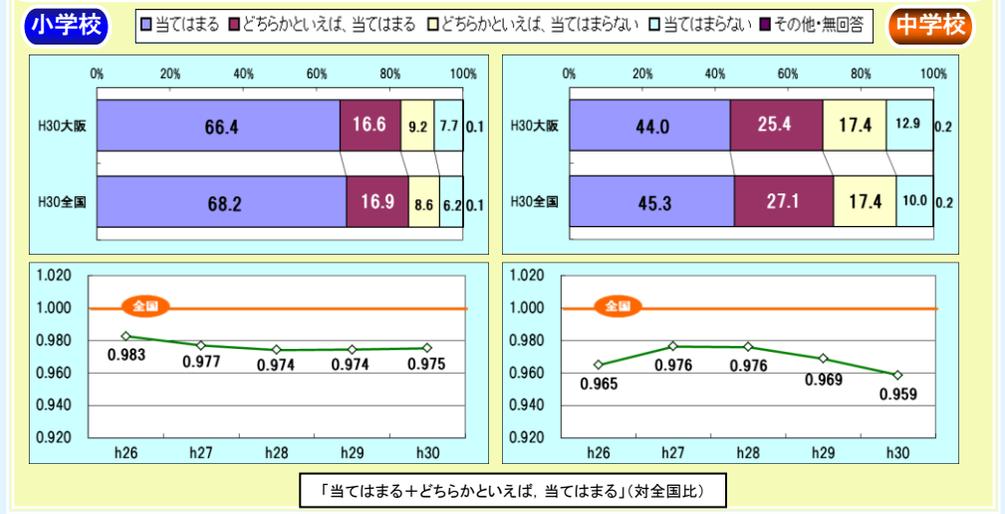


「当てはまる+どちらかといえば、当てはまる」(対全国比)

2 将来の夢や希望

Q: 将来の夢や目標を持っていますか?

・「将来の夢や目標を持っている」児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っている

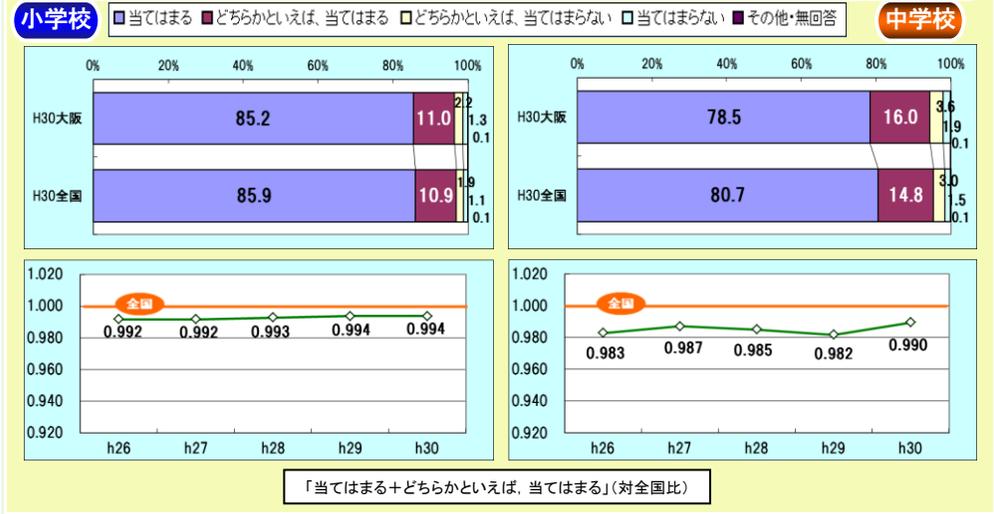


「当てはまる+どちらかといえば、当てはまる」(対全国比)

3 いじめに対する考え

Q: いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか?

・「いじめは、どんな理由があってもいけない」と捉えている児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っているが、経年変化で見ると、対全国比が一番高くなっている

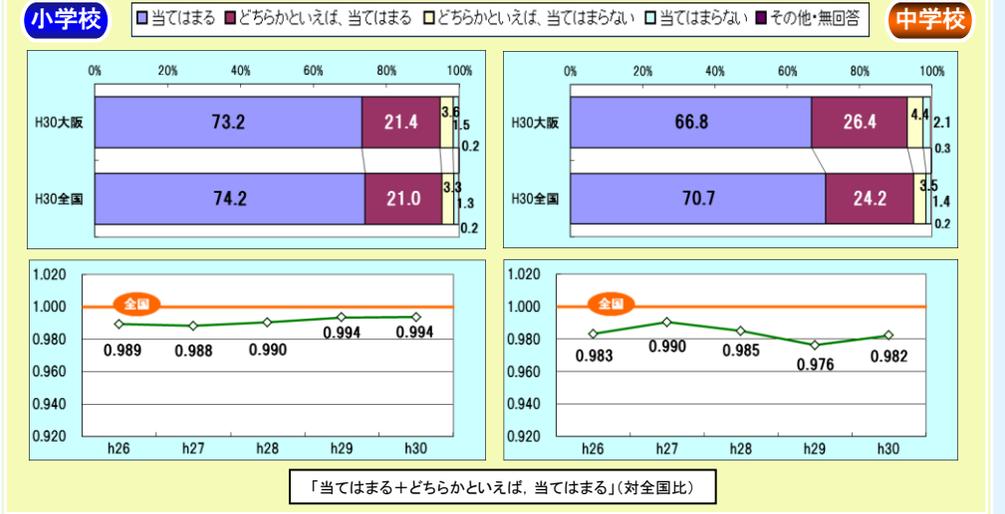


「当てはまる+どちらかといえば、当てはまる」(対全国比)

4 役に立つ人になりたいか

Q: 人の役に立つ人間になりたいと思いますか?

・「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っている



「当てはまる+どちらかといえば、当てはまる」(対全国比)

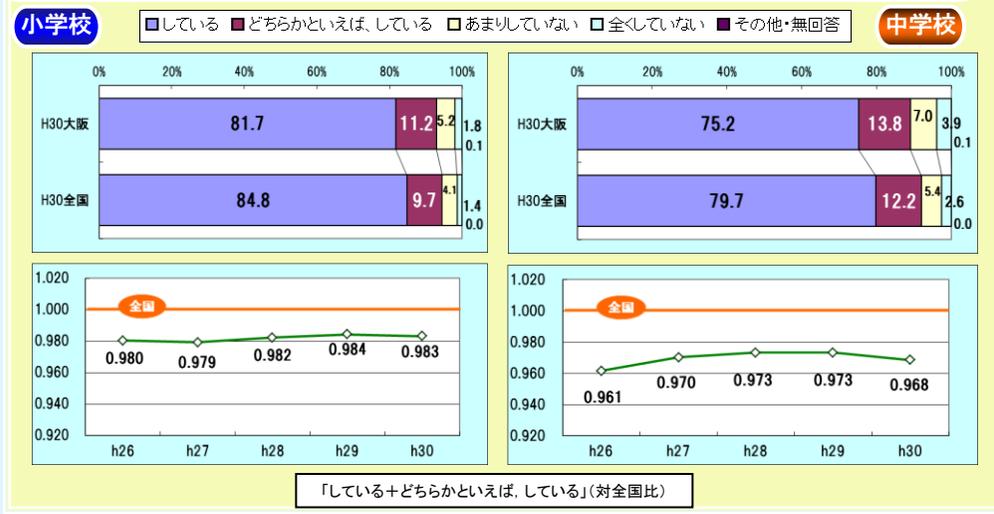
◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.2

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 朝ごはん

Q: 朝食を毎日食べていますか?

「朝食を毎日食べている」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を下回っている

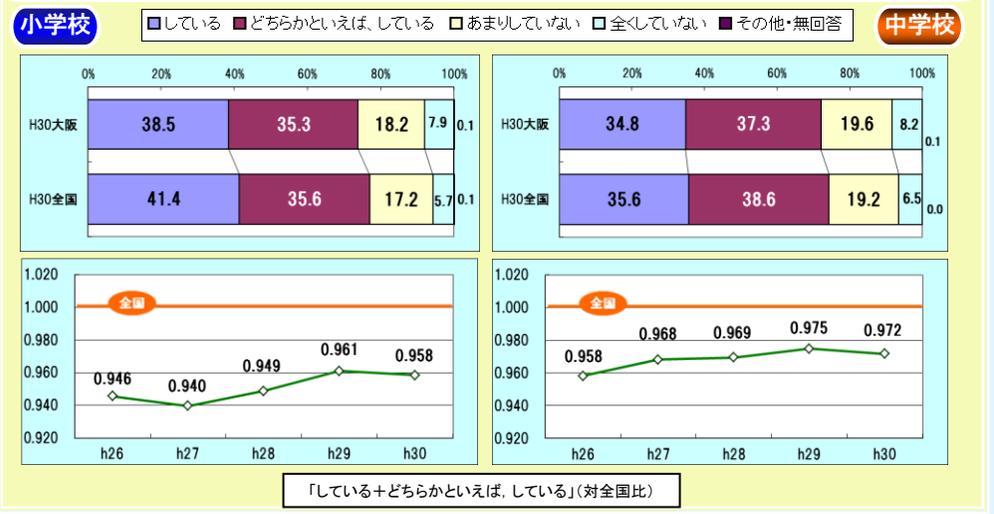


「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

6 就寝時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか?

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を下回っている

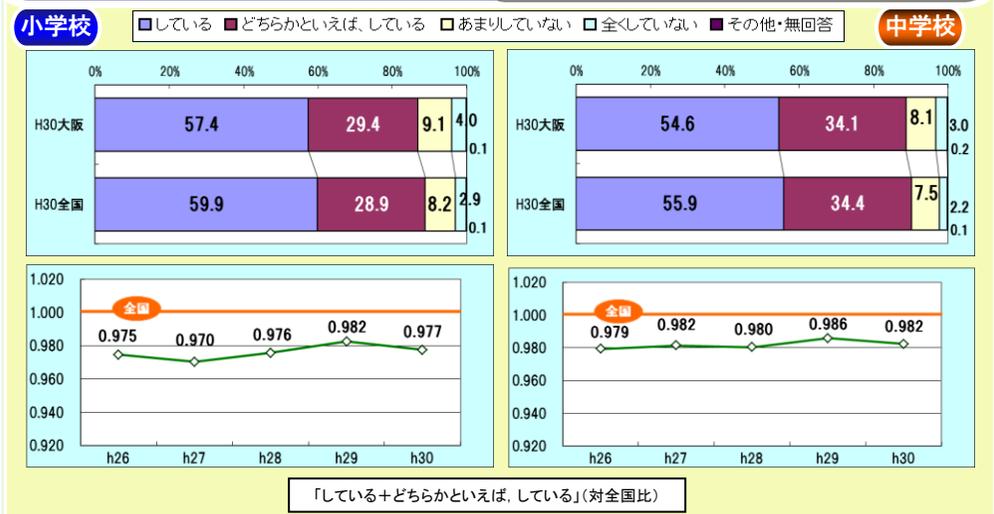


「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

7 起床時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか?

「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を下回っている

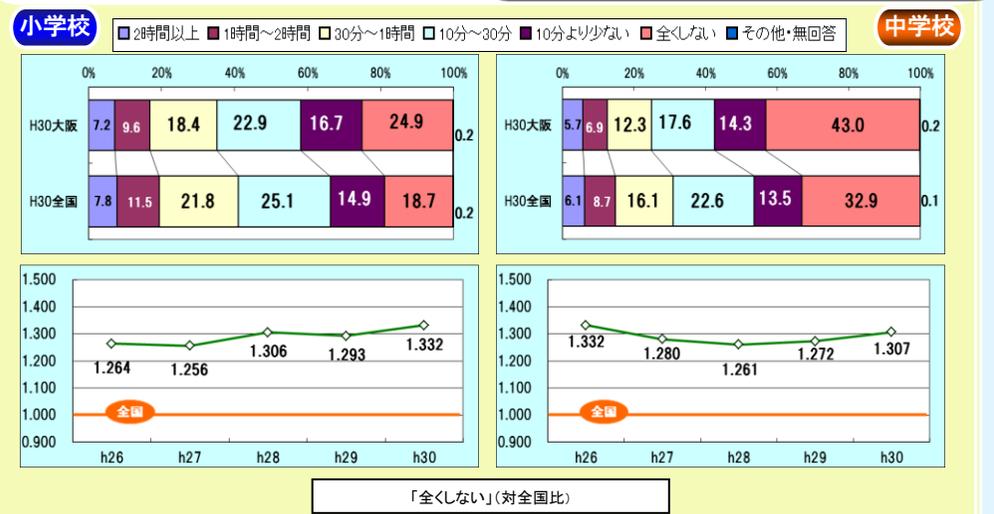


「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

8 読書の時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)どれくらいの時間、読書をしますか?

「普段、学校の授業時間以外に読書を全くしない」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を上回っている



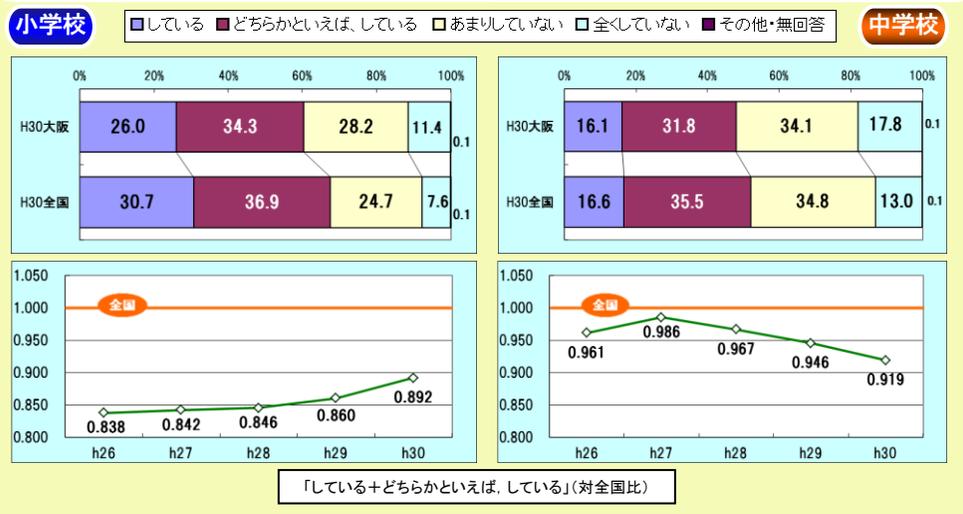
「全くしない」(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 自主的・計画的な家庭学習

Q: 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか?

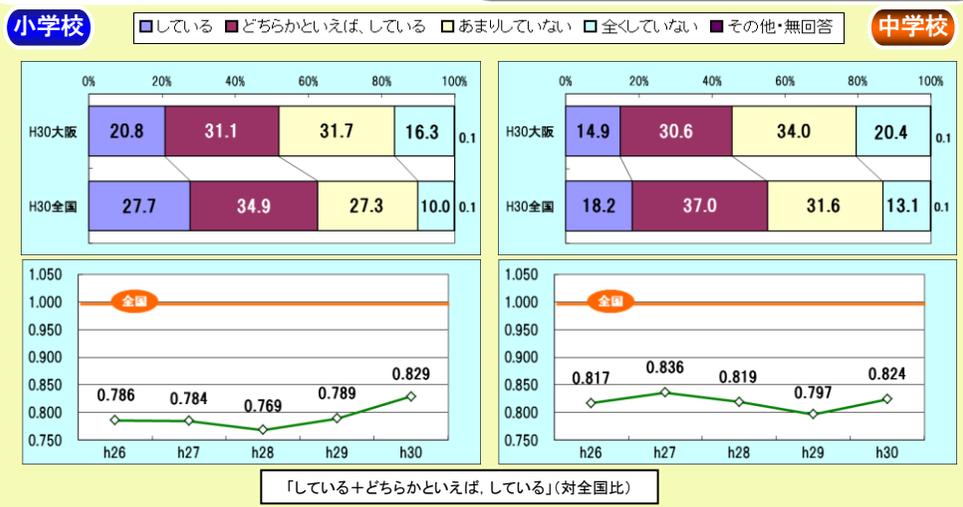
・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っているが、小学校においては対全国比は上昇する傾向にある



11 授業の予習・復習

Q: 家で学校の授業の予習や復習をしていますか?

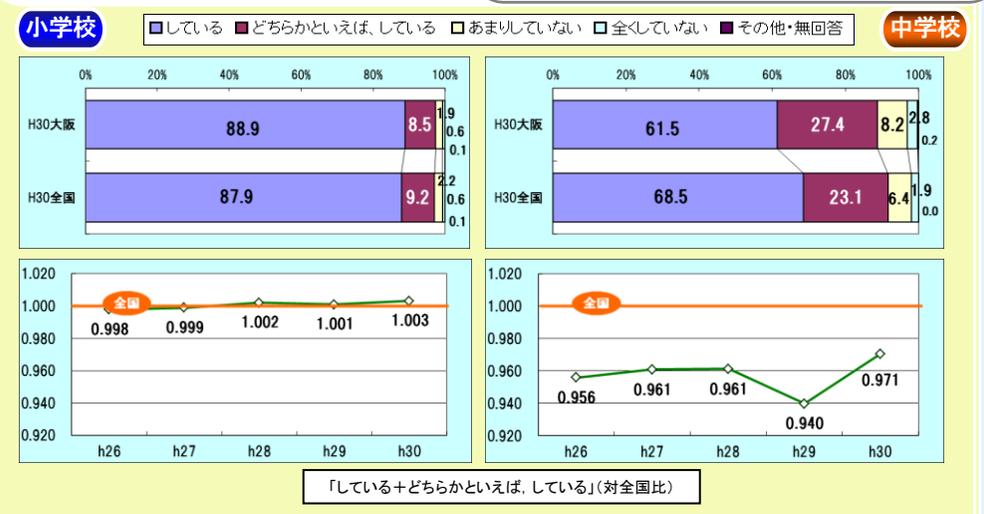
・「家で学校の授業の予習や復習をしている」児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っているが、小学校においては対全国比は上昇する傾向にある



10 学校の宿題

Q: 家で学校の宿題をしていますか?

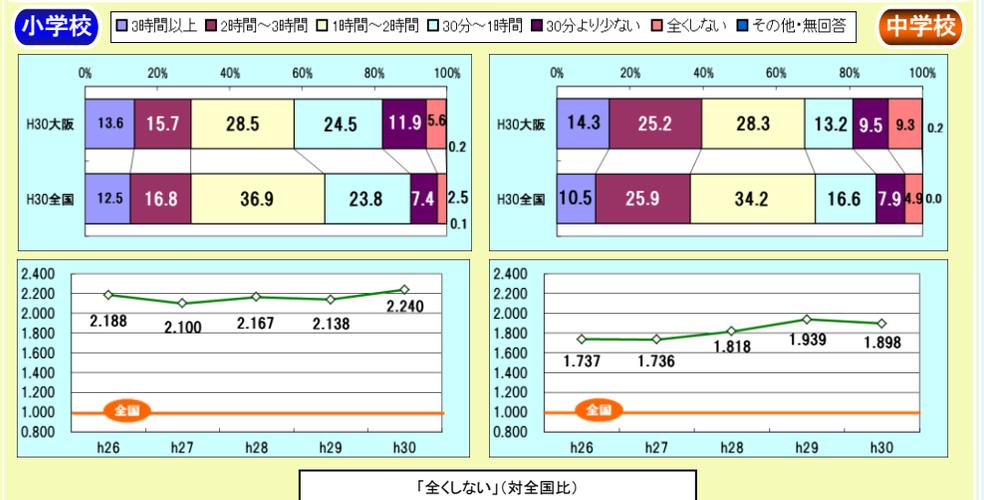
・「家で学校の宿題をしている」児童・生徒の割合は、小学校においては全国の状況をやや上回っており、中学校においては下回っている



12 1日あたりの勉強時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)1日あたりどれくらいの時間勉強しますか?

・「普段、家庭学習に全く取り組まない」児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている

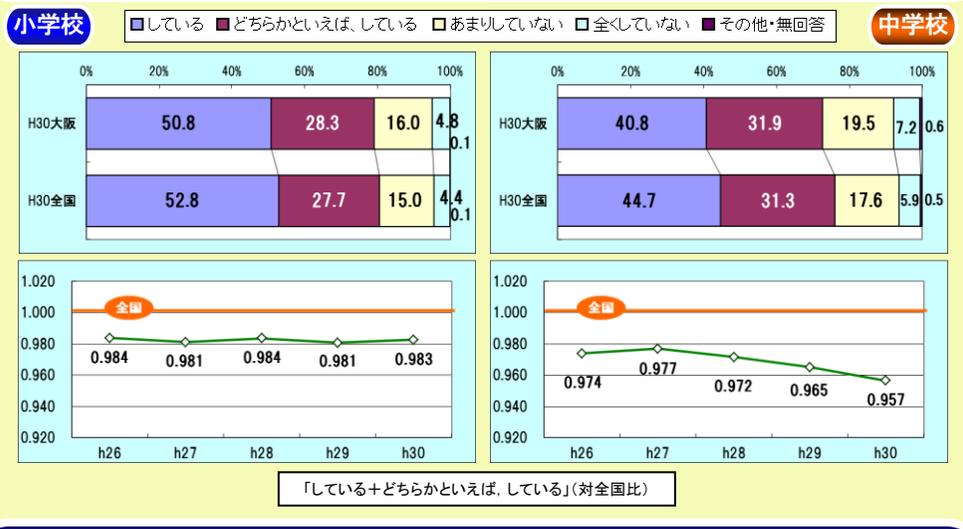


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

13 家族との会話

Q: 家の人と学校での出来事について話しますか?

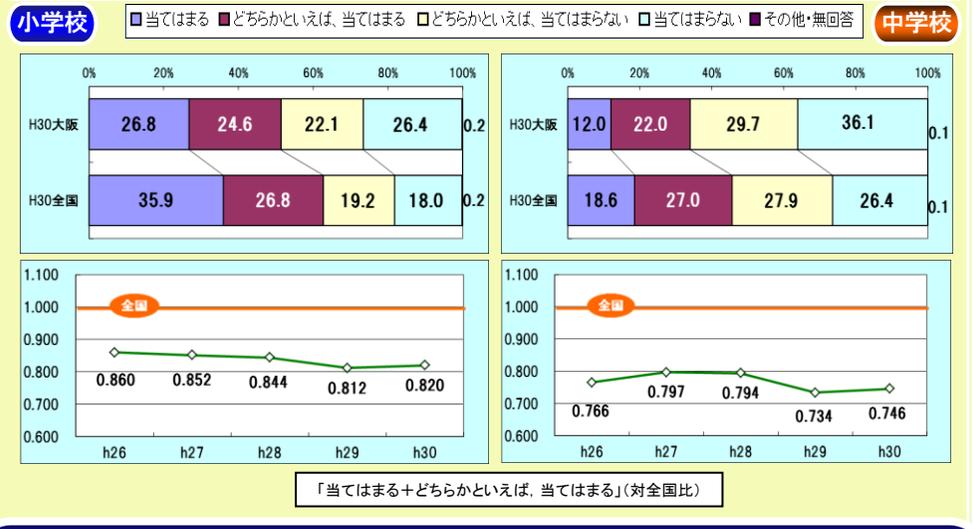
・「家の人と学校での出来事について話している」児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っている



14 地域行事への参加

Q: 今住んでいる地域の行事に参加していますか?

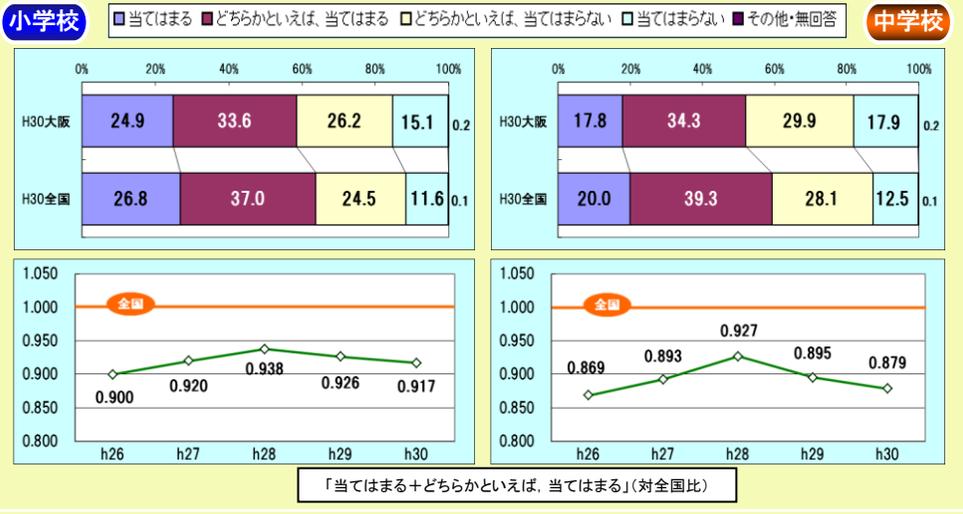
・「今住んでいる地域の行事に参加している」児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っている



15 社会への関心

Q: 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか?

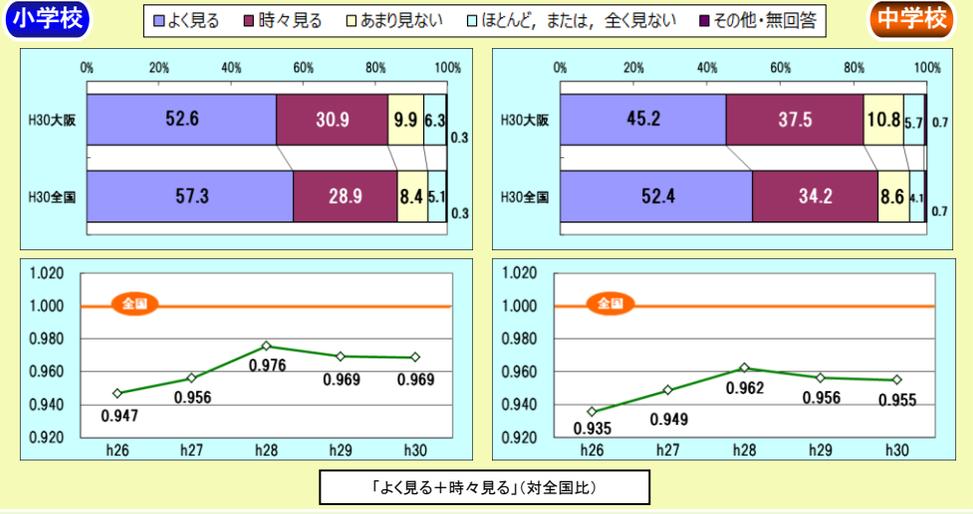
・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っている



16 ニュース番組等の視聴

Q: テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか?

・「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っている



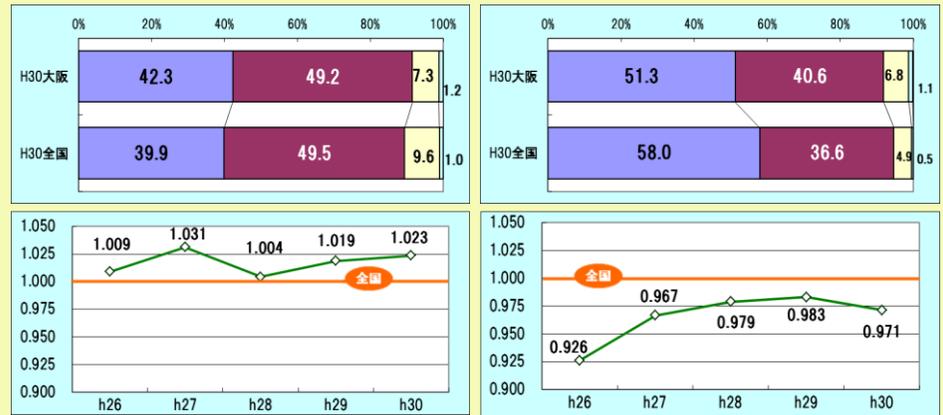
◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 授業中の落ち着き

Q: 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか?

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」と捉えている学校の割合は、小学校では全国の状況を上回っており、中学校では下回っている

小学校 そのとおりだと思う どちらかといえば、そう思う どちらかといえば、そう思わない そう思わない その他・無回答 中学校 そのとおりだと思う どちらかといえば、そう思う どちらかといえば、そう思わない そう思わない その他・無回答



「そのとおりだと思う+どちらかといえば、そう思う」(対全国比)

2 授業サポート

Q: ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか?

「ボランティア等による授業サポート(補助)を行っている」学校の割合は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている

小学校 よく行った どちらかといえば、行った あまり行っていない 全く行っていない その他・無回答 中学校 よく行った どちらかといえば、行った あまり行っていない 全く行っていない その他・無回答



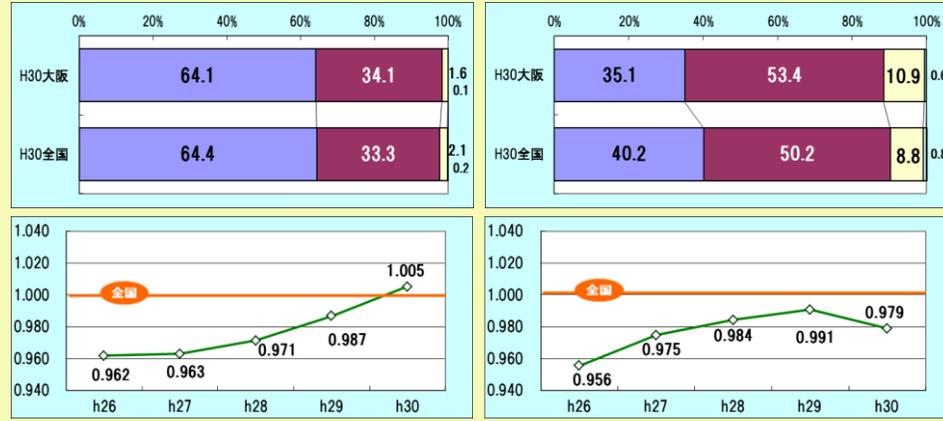
「よく行った+どちらかといえば、行った」(対全国比)

3 PTAや地域の人の参加

Q: 保護者や地域の人が学校の諸活動に参加していますか?

「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している」学校の割合は、小学校では全国の状況を上回っており、中学校では下回っている

小学校 よく参加している 参加している あまり参加していない 全く参加していない その他・無回答 中学校 よく参加している 参加している あまり参加していない 全く参加していない その他・無回答



「よく参加している+参加している」(対全国比) ※H30年度より表現が変更。(H29年度以前は「参加してくれますか」等)

4 調べたり書いたりする宿題

Q: 家庭学習の取組みとして、調べたり文章を書いたりする宿題を与えましたか?

「家庭学習の取組みとして、調べたり文章を書いたりする宿題を与えた」学校の割合は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている

小学校 よく行った どちらかといえば、行った あまり行っていない 全く行っていない その他・無回答 中学校 よく行った どちらかといえば、行った あまり行っていない 全く行っていない その他・無回答



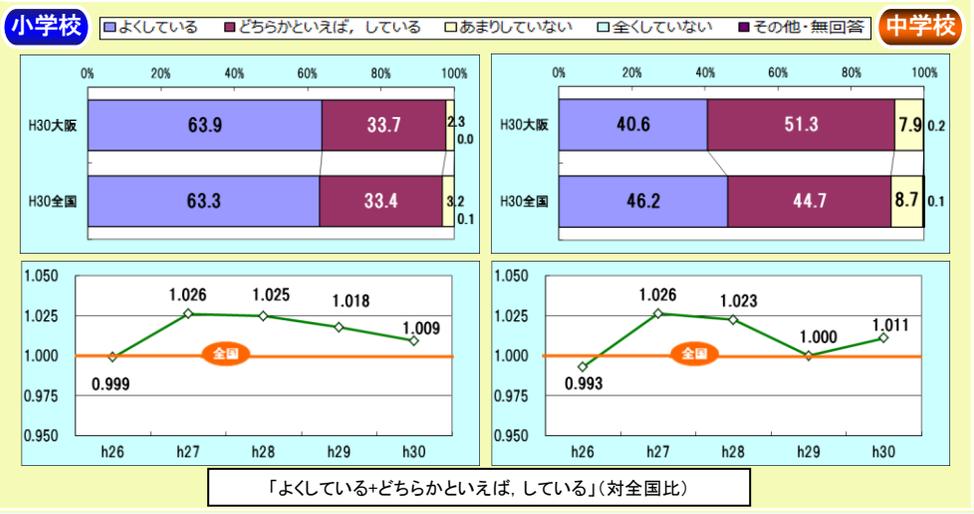
「よく行った+どちらかといえば、行った」(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 模擬授業等の実践的研修

Q: 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか?

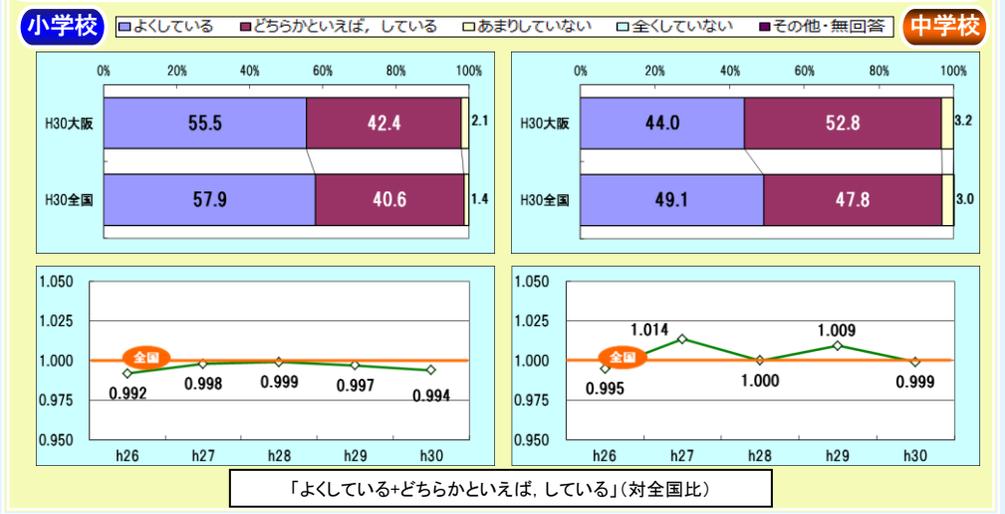
・「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」学校の割合は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている



6 学級の状況等の共有

Q: 学級運営の状況等を全教職員で共有し、学校で組織的に取り組んでいますか?

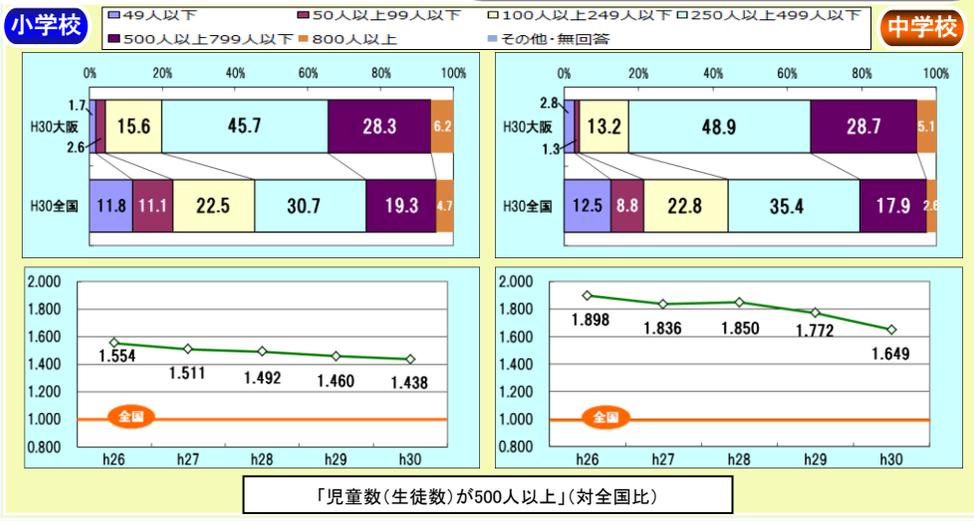
・「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる」学校の割合は、小・中学校ともに全国の状況とほぼ変わらない



7 学校規模

Q: 学校の全学年の児童数(生徒数)は何人ですか?

・調査対象日現在の学校の全学年の児童数(生徒数)が500人以上の学校の割合は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている



8 就学援助

Q: 就学援助を受けている児童・生徒の割合は?

・調査対象学年の児童(生徒)のうち、就学援助を受けている児童(生徒)の割合が30%以上の学校の割合は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている

